

令和元年 6 月定例記者会見要旨

開催日時 令和元年 6 月 27 日（木）午前 10 時 30 分 市長応接室

（市長あいさつ）

皆さんには日頃よりお世話になりありがとうございます。昨日は副市長人事の同意案件を議会にお諮りし全会一致で承認いただきました。7 月 8 日に就任いただくこととなります。

（7 月の日程説明等）

- 災害対策本部状況付与型図上訓練 7 月 12 日（金） 午前 9 時 市役所 302 会議室
- 第 52 回藤原咲平先生をしのぶ会 7 月 13 日（土） 午前 11 時 霧ヶ峰強清水
- 諏訪湖サマーナイト花火 7 月 21 日（日）～8 月 25 日（日）午後 8 時 30 分
諏訪湖畔
- TOYOTA SOCIAL FES!! 2019 7 月 27 日（土） 午前 8 時 諏訪湖など
- 第 40 回諏訪よいてこ 7 月 27 日（土） 昼の部：午後 2 時 10 分
夜の部：午後 4 時 45 分
- 教育委員会関係 7 月の行事予定

記者との質疑応答

○上諏訪地区の断水について

（記者）昨日、上諏訪地区の一部で断水が発生した。一時的とはいえライフラインが止まったことの市長としての受け止めと原因を聞きたい。

（市長）水道局長から発生直後に報告がありました。防災無線を通して対象エリアの皆さんに水道の断水と赤水が出る可能性がある旨の注意喚起をしました。最終報告は来ていませんが、足倉配水池で定期点検作業が午前中にありました。それが関係している可能性があるということです。今朝の報告では、原因については調査中です。断水は 1 時間程度で復旧しており、赤水の発生報告も来ていないということです。ライフラインとして水の供給は非常に大事なことで早く対応できたことは良かったと思います。原因については、しっかりと経緯を把握した上で、今後同様なことが起こらないように突き止めていくことが肝要だと思います。

（記者）広報や周知の体制はしっかりできたということでよいか。

（市長）そのほか、市民からの苦情等は聞いておりません。

（記者）原因はこれから把握だと思うが、人為的なミスなのか。

（市長）分かりません。しっかりと原因を把握してからになります。

○参議院議員選挙について

(記者) 参議院議員選挙関係で、選挙の日程も決まった。地方自治を預かる市長として、どんな論戦に期待をしているのか。また、県選挙区は4人が立候補しているが、市長として特定の候補を支援する予定はあるのか。

(市長) 市民各位それぞれお考えのもと、また、様々な団体も支援等あるかと思えますから、所属団体の意向等々判断のもとに投票されると思います。このところ投票率が落ちていますが、民主主義の根幹であります選挙ですからより多くの皆さんが投票されることを期待しています。特定の候補の支援については、市長としては、参議院は内閣を組閣する衆議院をチェックする立場になる人達を選ぶということになると思うので、大局的な視点を持った方になっていただきたいと思えます。地方行政を預かる立場とすれば、地域のことにより深い理解をいただいていることは、アドバンテージがあると思っています。

(記者) 特定の候補を支援することについてはいかがか。

(市長) ここは行政の立場の記者会見であり、政治的なことが色濃いことなのでこの程度でお願いします。

(記者) 投票率が落ちているとのことだが、岡谷市はレイクウォークに期日前投票所を設けている。諏訪市もアーク諏訪にすわっチャオがあるが、投票率アップへ向けた取組はないのか。

(総務部長) 今回、投票所の対応は大きくは変わりません。すわっチャオもできて間もないので今後の検討課題になります。期日前投票を充実させれば、それが全体の投票率アップとイコールというわけではない。ただ、期日前投票のニーズは高いので検討する余地はあると思います。投票率の向上対策としては、高校生に投票所の事務従事や期日前投票の立会人をお願いしたり、小学校等では職員による出前講座で選挙に対する勉強の機会を設けるなど地道に進めています。

○三市（諏訪市・糸魚川市・出雲市）交流事業について

(記者) 7月6日に三市交流設立総会があるが、諏訪市と糸魚川市、出雲市の交流のきっかけをもう少し聞きたい。

(市長) 糸魚川市長からのお声掛けがスタートです。古事記の時代の神話が縁結びであり、諏訪大社の建御名方命の母親が奴奈川姫であり、糸魚川の地域では奴奈川姫と建御名方命がセットで大事にされています。父親が出雲大社の大国主命です。東アジア一帯で唯一ヒスイが採れる奴奈川を治めていた奴奈川姫に求婚したようです。糸魚川市から神話による地域交流を行いたいという話がありました。今回は交流事業に名前を付けて、一つの組織を立ち上げるということで、設立総会を糸魚川市で行う予定です。「神話の縁結びかみがたりネットワーク」という名前に当日の承認を得られたら決定します。古事記の物語を縁として三市が連携し情報発信す

ることで、物語や地方の認知度の向上や、交流人口の増加などに取り組んでいくということになります。

(記者) 諏訪市の窓口としてはどちらが事務局になるのか。

(市長) 観光課です。

○副市長の役割等について

(記者) 昨日、副市長が決まったが、改めてどんな役割や活躍を期待するのか。

(市長) 県職員としていろいろなキャリアを積んでおられるということで、市町村財政や産業振興、それから上田市にも若いころ3年くらい出向経験もあり、教育委員会も少し経験され、国においては、総務省関係で長野県東京事務所の課長としての経験もあります。当市にとっても大変期待をしております。また、行政マンとしてやってこられていますので、役所のあり方について理解度が深い方だと思います。役割については、就任いただいた後に数日かけて庁内のレクチャーや私から規定されている副市長の任務を引き継ぎ、特定の事項については、教育長や部局長と相談してお願いしていきたいと思います。前平林副市長は、市役所の中で30数年間キャリアを積み重ね、役所の中を大変熟知されており、安定感のある頼れる副市長でしたが、新渡辺副市長には持てる力をその局面で十分発揮していただきたいと思います。諏訪市とすれば、初めて県職員からの登用になります。これを一つのチャンスとして、様々な知見があると思いますので吸収し、我々もくみ取ってもらうものをアピールして双方で上手いコラボレーションができることを期待しています。最終的には諏訪市の目標や課題が前進していく、良い結果をもたらすように力を合わせていくことをお願いしていきたくと思っています。

○オスプレイ目撃について

(記者) 昨年来、南信地域でオスプレイの目撃事例が増えているようだが、市として感じることやあるいは求めることはあるか。

(市長) 諏訪市において、オスプレイの目撃は報告されていませんが、米軍の輸送機と思われる航空機の低空飛行が目撃されたのが5月15、16日にありました。県と情報交換をすることになっており、そのような情報を速やかに県に報告するようにしています。県や近隣自治体と共に連携しながら対応していきたくと思っています。

(記者) 過去も含めてオスプレイの目撃事例はないか。

(市長) 諏訪市では目撃事例はないです。

(記者) 市民から心配の声は特にないか。

(市長) 特に聞いていません。

○すわっチャオについて

(記者) すわっチャオがオープンして約1ヶ月が経ち利用は好調のようだが、一方で駐車場の無料時間を伸ばして欲しいという意見もある。その点を踏まえ今後どのように対応していくのか。

(市長) まだスタートしたばかりです。施設が明るく気持ちが良いとか、定期的な利用を望む声が届いており、好評で大変ありがたく思っています。同時に駐車場については、かつてあの場所に市営駐車場があり、3時間無料だった経過があるのでその声は届いています。ただ、現在の駐車場は諏訪駅前開発株式会社所有の民間の駐車場です。アーク諏訪はテナントビルで一階がスーパーマーケット、二階はテナントが入っていますが、まだフル稼働ではない状況です。二階の奥に入る予定の小児科や整形外科は、今年の秋以降に開院の予定です。後は飲食店も予定されています。民間の駐車場ですので、ビルがフル稼働になった場合に、すわっチャオの利用者が駐車場を占有してしまって、ほかの利用者の皆さんが利用できないようなクレームが来ることも想定されます。フル稼働ではない状況なので、今後半年とか、1年とか利用者の様子を見る中で判断していくべきだと考えていますのでもうしばらくお待ちいただきたい。3時間無料にした経緯については、諏訪丸光が閉店になり、駅前の商店街の皆さんが、お客さんが来なくなってしまい市営駐車場を3時間無料にという要望を受けて、1時間無料を3時間に延長したと聞いています。アーク諏訪の1時間無料については、諏訪駅前開発株式会社との申し合わせにより、1時間分の費用をそれぞれのテナントが負担しています。諏訪市もお支払いをしますが、利用した人の1時間無料分を利用していない方からも税金としていただいている仕組みなので、それをさらにとということになりますと、受益者負担といえますか、そこを目的として利用する方の負担のあり方を市民の中で考えていただくことも大事ではとお話をしている段階です。もうしばらく様子を見たいので時間をいただきたいと申し上げているところです。

(記者) もうちょっとというのは、半年、1年位か。

(市長) アーク諏訪がフルオープンになっていませんので、それからになると思います。行政が主催するイベント等では、参加者に対してサービスチケットをどうするかはこれから検討します。あの駐車場は民間の駐車場ですから利用者の意向もあると思います。よく吟味する必要があると思っています。

(記者) フルオープンして様子を見るということか。

(市長) その方が良いと思っています。

○ゆう活事業について

(記者) 前回の定例記者会見で、7月からゆう活を実施する予定と伺ったが、今年もゆう活を取り入れる諏訪市の狙いはどこにあるのか。

(市長) 今、働き方改革が言われています。もちろん仕事としてのサービスをきちんと提供し、職場の合意を取り付けながら自身のライフスタイルに有効であれば、柔軟な働き方に取り組むべきと思っています。去年は、59人が参加して、延べで459人になりました。夕方の明るい時間を大いに活用しましょうということです。今年も9月まで1ヶ月延長して3ヶ月間で行うことになりました。間もなくスタートいたします。詳細については、担当部長より申し上げます。

(総務部長) 7月1日月曜日からは開始いたします。特に若手から中堅職員のワークライフバランスの実現と意識改革を考えているので、ご指導いただければと思います。去年はスタートした時に千曲市と諏訪市の2市でした。今年も、県に確認しましたら4市ということで全国的にも増えてきています。国の進めている働き方改革の一環ということです。公務員はフレックスタイムの導入が法的にも難しく、今回もフレックスではなく、勤務時間の割り振りで行っています。勤務時間をスライドする位置付けになります。ただし、窓口業務に支障がないように各課で調整することが前提です。早く退庁することにより時間外勤務の抑制や時間の効率的な使い方にもつながります。去年のアンケート結果では、参加した9割以上の職員が、ワークライフバランスの実現と意識改革につながったと答えています。

(記者) 去年は、2ヶ月を実験というような形で経験し、今年も3ヶ月実施する。夏場の日の長い時間帯を活用するサマータイムが、ゆう活の表現になっていると思うが、ワークライフバランスや時間の使い方の意識改革を実際に職員が行うことによって、他の時期にも活かしてもらいたいといった狙いもあるのか。

(市長) 働き方改革はできるところからということで、ゆう活もスタートしますが、今のお話は今後どのように発展していくかということで可能性は否定しません。利用職員や職場の声も拾いながら、次の模索があればと思います。ゆう活をする職員が身近にいることで、職場の働き方の意識が変わっていくことはあると思います。

(記者) 7月から9月までの限定で行うので、その間に上手く段取りをして働いた経験を10月とか冬場の働き方についてもうまく連動して行ってほしいという考えは。

(市長) 利用した職員やその職場からそうした提案が出てくれば、それは受け止めて検討する可能性はあります。

(総務部長) 意識とすれば、その試行によって時間の効率的な使い方、タイムマネジメントの意識を職員に持ってもらい、職場環境においては、夕方その職員が退庁してもきちんと職場体制が取れるように、誰でもその職を担えるように、その後においても続けられるように想定しています。